

“たすけ上手”で“たすけられ上手”な人になり、  
[All Ashiya] の力をあわせて、  
心地よく暮らせる福祉を創造します

第2次芦屋市地域福祉計画 [概要版]



最優秀  
なかよしベンチ 

平成24年3月  
芦屋市

# わたしたちの暮らしと地域福祉

「地域福祉」という言葉が、いろいろなところで聞かれるようになりました。  
わたしたちの暮らしは、地域福祉とどのような関わりがあるのでしょうか？

- わたしたちの生活のなかで起こるさまざまな“困りごと”にきめ細かく応える「地域にねざした福祉」が、広がってきています。

核家族化や少子高齢化がすすみ、社会が複雑化するなかで、わたしたちが出会う可能性がある“困りごと”は多様になり、そして、増加しています。そこで、「公的なサービスだけでなく、地域の力を集めて、市民のニーズに的確に応えていこう」と広がっているのが、【地域にねざした福祉＝[地域福祉]】です。



- 「だれもが地域とつながりをもって安心して心豊かに暮らせるように」と願う、市民どうしの“お互いさま”の気持ちが、地域福祉の推進力です。

“困りごと”が起きたときには“たすけられ上手”になって、早めに支援を受けることが大切です。また、困っている人の立場になって自分ができることで支える“たすけ上手”になる“お互いさま”の気持ちを多くの市民がもつことで、地域福祉は広がっていきます。

- 新しい暮らし文化のひとつとして「芦屋の地域福祉」を発信することを通じて、わたしたちのまちの魅力もいっそう高まります。

“たすけ上手”で“たすけられ上手”な市民の支えあいを芦屋の新しい暮らし文化にして、心地よく暮らせるコミュニティづくりをすすめていきましょう。



## 第2次芦屋市地域福祉計画とは

《位置づけ》 関連する法令や市の各種計画との関係をふまえ、つぎの位置づけをもたせています。

- ・ 社会福祉法に基づく市町村地域福祉計画（地域福祉をすすめるための計画）
- ・ 「芦屋市総合計画」を地域福祉の視点で具現化する計画
- ・ 芦屋市の保健福祉のマスタープランとなる計画

《計画期間》 平成24年度から平成28年度までの、5年間の計画です。

《策定方法》 市民が参画し、市民と市民、市民と行政が協働する計画にするため、「地域福祉計画策定委員会」や「地域福祉市民会議」、「市民意識調査」、「パブリックコメント」などを通じて広く意見をお聞きし、主体的な参加を得て策定しました。

《推進方法》 「(仮称)地域福祉計画推進評価委員会」を設置し、一人ひとりの市民、団体、事業者などの多くの人々の参加のもとで推進していきます。



# “芦屋らしさ”を活かした地域福祉をめざして

地域福祉は「地域にねざした福祉」ですので、芦屋のまちのよいところを最大限に活かして課題を解決していくことが非常に重要です。そこで、

わたしたちの思いを活かして地域福祉を考えるよう実施した「地域福祉市民会議」や「市民意識調査」では、芦屋のまちについて、つぎのようなよい点や課題があげられました。

## 【わたしたちが好きなところ】

- ・自然や歴史文化に恵まれ、生活の環境がよい
- ・まちの大きさがちょうどよいので、  
まちや人の動きがわかりやすい
- ・市民の力があり、さまざまな活動が行われている



## 【なんとかしたいと思っていること】

- ・地域のつながりを強くしたい
- ・地域福祉の取組をもっと充実したい
- ・社会参加のための環境をさらに高めたい



まちの状況やわたしたちの思いをふまえて、“芦屋らしさ”を活かした地域福祉は、つぎの3つのキーワードを大切に考えていきます。

### 《自立を支える福祉を》

市民の主体性を活かして、困ったときにはSOSを発信し、自分らしく自立して生活するよう支えあう質の高い福祉をめざします。



### 《豊かな資源を活かし》

そのために、豊かな環境や多彩な人材の力を最大限に活かしていきけるしくみをつくります。



### 《[All Ashiya] の力を 結集して創造します》

そして、地域のあらゆる力を結集して、芦屋らしさを活かした地域福祉を創造するよう取り組みます。

《市民意識調査から》芦屋のまちについて、「子育ての環境がよい」は67.2%、「高齢者が安心して住める」は64.4%の人が肯定的に評価しています。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそうは思わない
- そうは思わない
- わからない
- 無回答